

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1070400641		
法人名	有限会社アイケアほしの		
事業所名	グループホームまんさく		
所在地	群馬県伊勢崎市今泉町二丁目831番地1		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成30年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

まずは、スタッフの利用者様への温かい対応です。認知症を理解した上で、それぞれの方に応じたケアを行えるようにしています。管理者として、スタッフの温かい対応には自信あり、とても感謝しています。小規模な施設なので、利用者様へ目が行き届きやすいという点で大規模施設にない利点があります。そして、食事面の充実です。利用者様の健康に配慮しつつ、スタッフがそれぞれの得意な手作り料理を提供しています。利用者の皆様方がいつまでも健康で、すこやかに、そして愛されて生活できますよう、そして同時に御家族様の介護による負担軽減という意味で、我々のできることを精一杯させていただきますと思う所存であります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昼食時、テーブルに並べられた食事の盛り付けを見てまず食欲をそそられた。出来るだけ多くの食材を使い、手作り、盛り付けの工夫等、利用者にとって楽しみの一つである食事に対して事業所が如何に力を入れているかを実感出来た。利用者の体力や体調を見ながら安易に手を出さず、今出来ることを大切にとの姿勢で利用者への支援が行われている。昼食時の職員の対応を見て実践に活かされている事が伺い知れた。入浴の支援はややもすると事業所の都合になりがちであるが、利用者中心の対応が行われている。入浴は午前と午後の対応で、希望により毎日入浴する人、ゆっくりと時間をかけて入浴を楽しむ人とさまざまである。利用者の体力維持のための体操や手すりを使ってのストレッチが継続して行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間としての尊厳を大切にしながら家庭的で暖かな生活を送れるように支援します」等、毎朝利用者と職員で唱和している。	新入職員には入職時に理念を説明している。毎朝、利用者と職員と一緒に理念を唱和して確認しており、職員は常に理念を意識しながら個別対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営者・管理者は事業所の隣に住居していて、地域の委員会に、日頃から地域の人達との交流に努めている。町内の夏祭りや区の作品展に参加したり、地域の人に施設の見学をしていただいている。	管理者は事業所に隣接して居住しており、日頃から近隣住民との交流の機会を持っている。地元開催の夏祭りや作品展の見学、散歩やお花見時の会話等、近隣の方と接する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の誕生会や、敬老会の時に事業所に来ていただき一緒に過ごし、認知症の人の理解や支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催している。事業所からサービスの状況等の報告を行い、出席者からの意見や要望を受け意見交換を行っている。	市の担当者・民生委員・利用者・家族・事業所関係者の参加で2ヶ月に1回開催している。事業所から行事や利用者状況報告、時期のトピック(インフルエンザ等)に関して話し合いが行われている。	毎回同じ家族代表者が参加している。開催日等を工夫し、他の家族にも参加を呼びかけ、議事録は会議の報告と関心を持ってもらうために送付してはいいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所様は、例えば大雪や台風が来た時に、何か被害はないかということを頻りに連絡をくれたり、省令等を随時連絡して下さいますので、市町村と連携した運営ができていると考えます。	管理者が介護保険更新代行、事業所の報告・相談で市の担当者を訪問している。市からは台風や大雪時に被害の問い合わせもある。市主催の会議に参加して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及びすべての職員は、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、職員の見守りの中で安全面に配慮しながら日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵はかけていない。身体拘束に関する会議に出席しており、会議の資料は職員に配布し、全員が共通の認識を持って業務にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について研修をしており、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強しており、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、十分な説明を行い、利用者や家族に理解・納得していただけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や運営推進会議には、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、苦情や意見等を聴くように努めている。また、玄関に投票箱を設置している。	利用者の思いは日頃の言動から、家族等の意見や要望は来訪時に聞いている。玄関に投票箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、日々の運営に関する職員の意見に耳を傾け務めている。	代表者・管理者は会議や申し送りの時に職員の意見を聞いている。管理者から入浴時の対応を2人態勢にとの提案があり、職員も同意見を持っていて即実践に活かされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は、職員がやりがい・向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備等に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内でテーマを決めて研修を行っている。意欲のある職員には外部の研修に参加できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型密着サービス連絡協議会に加入しており、大会や管理者研修、ブロック別の研修会等に参加している。地域の同業者と交流する機会を持ちながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活になりますので、本人は多少なりとも不安があると思いますので、安心して生活していただけますよう、温かく接することを心がけております。その上で、本人の困っていることや要望に耳を傾け関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時に家族が困っていることや、不安なこと、要望等を面談した上で聴き、利用者が安心・納得した上で利用できるよう支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を聞き、本人の状況と状況を考えてうえで、当施設以外の他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とともに生活していく中で、利用者から教えていただく場面があり、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族等の意向や状況を把握・確認しながら、利用者と家族のきずなを大切にし、ともに利用者を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族等に、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所を聞き、これまでの関係ができるだけ途切れないように支援しています。	家族や親族の訪問、家族でのお墓参り、在宅時に大事にしてきた馴染みのタンスや人形を持ち込む等、これまでの関係が途切れないように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者とともに生活する中で、利用者同士の関係を把握し、1人1人が孤立せず、関わり合い、支え合えるように調整、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院されても訪問したり、相談に応じたりすることで、サービス利用が終了する前と同じように関係性を大切にしながら、本人・家族の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で、利用者の言葉や行動等から思いや意向の把握に努めています。	日頃の支援時の利用者との会話から、思いや希望等の把握に努め、言葉の出ない人からは推察している。家族からの情報も参考にして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や力量に応じて、洗濯たみや掃除、テーブル拭き等の役割を持ちながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のその時どき心身の状態や、好み、有する力等の現状について職員同士で情報を共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者・家族等の意向を参考にして介護計画を作成している。モニタリングは毎月のカンファレンスの時に、計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。状態に変化の見られた時には随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りの時に職員で話し合い、意見や気づきを反映させた介護計画に見直しをしたり、職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族等の意向や現状を確認しながら、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は近所への散歩や買い物に出かけたり、地域の行事への参加など積極的に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族等の希望に応じて、希望のかかりつけ医との受診や通院の支援に柔軟に対応し、適切な医療を受けられるよう医療連携に努めています。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を受診出来る。家族が都合で同行通院出来ない時には職員が通院支援をしており、結果は電話等で知らせている。訪問歯科は必要時や希望により対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、または利用者の状況に応じてバイタルチェックし、看護師に伝え、早期に適切な受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、見舞いに伺い、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「ターミナル期における事前確認書」を作成している。利用者、家族等に事業所の方針を説明し、同意を得ている。また、かかりつけ医とともに話し合いを密にして、チームとしての支援に取り組んでいます。	入居時に終末期対応についての説明をしている。家族・医師・職員など関係者で話し合っ希望する支援に繋いでいる。これまでに看取りの経験は無いが、希望があれば看取り対応の体制は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者を中心に、急変や事故発生に早期に対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害の訓練をしている。秋には消防署に立ち合いを依頼し、指導を受けている。またスプリンクラーも設置済みです。	年に2回、昼夜を想定して、総合防災避難訓練(内1回は消防署立会い)を実施している。自主訓練は年に3回実施している。備蓄として3日分の飲料水と食料の用意がある。	いざと言う時に慌てずに確実な避難誘導が出来るよう、自主訓練を増加してはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、言葉を選び個人の尊厳やプライバシーが損なわれないように配慮しています。	尊厳やプライバシーを損ねないために、特にトイレ誘導時の言葉かけには配慮している。呼称についても～さんと統一している。個人情報には外部に漏らさないことを徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人が日常生活の中で思いや希望を表したり、自己決定できるように職員は利用者様と寄り添いながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に支援していて、夜眠れない利用者には職員と一緒にお茶を飲み、話をしながら寄り添っています。テレビを見たい人には、希望の番組を見てもらうようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗面・整容の声かけや見守りをしながら、1人1人が好みの身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を献立に取り入れていきます。利用者は力量に応じて野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け等を職員と一緒にしています。	利用者の希望を取り入れ、栄養面にも考慮した献立で、食欲をそそる盛り付けである。牛乳・お茶・スポーツドリンク等、希望を聞いて提供し、一日に1回は献立に季節の果物を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事や水分量を記録し、職員は情報を共有しながら支援しています。利用者の希望を取り入れながら、新鮮で安全な食材を使用し、栄養バランスのとれた食事を提供・支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人の口腔機能や本人の力に応じた口腔ケアを支援し、口の中の汚れやにおいが生じないように清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導や、1人1人の力や排泄のパターンを確認し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	昼間は排泄チェック表を参考にトイレでの排泄誘導を行っている。夜間はトイレでの排泄の方、オムツ使用の方と個別の支援をしている。失禁時にはシャワーにて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排便状況を毎日記録し、水分量や食事量をチェック、記録し、便秘にならないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様1人1人の生活習慣を職員は把握し、その時々状況に応じた対応をしています。	入浴支援は利用者の希望を聞いて対応しており、毎日入浴する方、1日置きの方それぞれである。入浴時間は午前9時から11時30分まで、午後は2時からとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様1人1人の生活習慣を職員は把握し、その時々状況に応じた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人が使用している薬の目的やその副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かした役割や嗜好品、楽しみ、気分転換等を確認し、毎日張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見や地域の行事に参加しています。本人の希望を把握し、天気の良い時などに合わせて外出し、楽しい雰囲気になるように支援しています。また、可能であれば週末に自宅へ1泊するようなことを薦めたりもしています。	近隣の散歩、花見、展示会の見学、ベランダでの日光浴、自宅に帰られる方、避難訓練時に外気に触れる等と出来るだけ戸外に出る機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、利用者の状態を考慮したうえで、家族と相談し、お金の使用を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話ができる利用者様には電話で話をさせていただいたり、手紙のやり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって安心して過ごせるように、写真や花を飾ったり、生活館や季節感を取り入れて居心地よく生活できるように支援しています。	華美な飾りつけは無く、特有の臭いも感じられず、落ち着いて過ごせる雰囲気のある共用空間である。窓越しに人の往来が見られて、人々の中で生活していることが実感出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや廊下に椅子を置き、利用者1人1人の居場所づくりを支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや椅子、衣装ケースなど今まで使い慣れたものや好みのものを持参していただき、利用者居心地よく過ごせるように支援しています。	利用者各人は馴染みの椅子・タンス・テレビ・時計・着替えの洋服やぬいぐるみ・家族の写真・カレンダー等を持ってきて、個別性のある居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、利用者の名前や花を飾っており、自分の居室がわかるように工夫しています。利用者様が自分の部屋がわからなくなった場合は、やさしく温かい言葉がけで誘導します。		